

天才

天才とは僅かに我々と一步を隔てたもののことである。ただこの一步を理解するためには百里の半ばを九十九里とする超数学を知らねばならぬ。

芥川竜之介著「侏儒の言葉」より

【註】

2を底とする距離 x (里) の指数関数 $f(x)$ を達成度とする。すなわち、

$$f(x) = 2^x \quad (1)$$

とおくと、

$$f(99) = 2^{99}, \quad f(100) = 2^{100}$$

両者の比をとると、

$$\frac{f(99)}{f(100)} = 2^{99-100} = 2^{-1} = \frac{1}{2}$$

となるので、九十九里の達成度は百里の半ばとなっている。こうして、芥川のいう「超数学」とは、指数関数のことであることが分かる。

天才の場合も同様にすれば良い。(1)式において、ある人の能力を x 、業績を $f(x)$ とする。これらをどのように決めるかは、今は問題にしない。こうすると、「天才とは僅かに我々と一步を隔てたもののことである」が理解できる!?

【参考】

「分類と明確さを好む彼のくせは、よく冗談に対数表で物理学者の分類をしたが、それによく現れている。これは、例えば二級の物理学者の業績が一級の学者の業績の十分の一であることを意味する。これによると、アインシュタインは、二分の一級、ボーア、シュレディンガー、ハイゼンベルク、ディラック、フェルミ、その他若干の人たちは一級であった。そして自分は二・五級にしていたが、十年ばかり前だったか、ある研究(私はこのときの話は覚えているが、どんな研究を指していたのか覚えていない)に満足して、やっと二級になったとランダウは話していた。そして五級は、全然内容のない論文を発表している、いわば病的な物理学者たちだった」

マイヤ・ベラサプ著、金子不二夫訳「ランダウの生涯」